

静観台グループ例会

於：サイエンスフィールド 2003.06.11

参加者 石浦（科学園）高松（仁美小）松本（国府小）田辺（津島小）福井（伊島小）

【補充的な学習・発展的な学習】

平成14年1月に文部科学省が確かな学力の向上のために「学びのすすめ」というアピールを出しています。その背景には新学習指導要領の実施により児童生徒の学力が低下するのではないかと懸念が社会の各方面からでてきたということがあります。「学びのすすめ」では、心の教育と確かな学力の向上をうたい5つの方策を提言しています。その第1は、「きめ細かな指導で、基礎・基本や自ら学び自ら考える力を身につける」であり、第2は「発展的な学習で、一人一人の個性等に応じて子どもの力をより伸ばす」です。この提言を受け、各教育委員会でも基礎・基本の確実な定着と自ら学び自ら考える力の育成、発展的な学習の実施を求められています。

そこで岡山県教育センターでも指導資料作成委員会を設け、田辺先生が3年生担当になっています。指導資料作成の方針としては、現行の教科書の流れを活かしながら、その中に児童の実態に合わせた補充的な学習と発展的な学習を組み込んでいこうというものです。先に紹介した文部科学省の「学びのすすめ」には学習指導要領は最低基準であると明記されていて、これにより指導要領に載っている内容の理解の保障がすべての児童生徒に求められると共に、個の実態に応じて指導要領よりも高度な学習を組み込む指導の必要性がでてきた訳です。

例会では、どうやって補充的な学習を行う子供と発展的な学習を行う子供を分けるのか、ということがまず問題になりました。ペーパーテストで知識理解を問うという方法が容易に考えられます。しかし、理科で育てるのは知識理解だけではなく、このような方法で短兵急に子供達を選別し、補充問題を解かせようとするのは理科嫌いを増やす原因になるのではないかと心配する声があがりました。出来る子とそうでない子を選別する発想ではなく、同じ実験や観察をしながら、そのなかでその子なりの進歩が得られるような実験はできないものだろうか…。これからしばらく静観台では「補充と発展」をキーワードに研究が進みそうです。



【だ液の働き】福井

6年生「動物の体の働き」では「呼吸」が終わり「消化」をやっています。実験とプリントとビデオを毎時間組み合わせて授業しています。問題→予想→実験というパターンにならないのが悩みのタネ。

- ① フンは本当に食べ物が変わった物なのか。顕微鏡を用いてカイコのフンに含まれる葉脈を観察する。
- ② 食べ物とフンの違いは？ 形・大きさ・色・におい
- ③ フンへの変化は、どこで、どのような働きによるものか。
 - 前歯や犬歯で切り取り、引き裂き、奥歯ですりつぶす。
 - だ液により、でんぷんが別のものに変えられる。
 - 胃液によって吐瀉物のようにドロドロに溶かされる。
 - 小腸では養分を吸収。胆汁・すい液によって色がつく。
 - 大腸では水分を吸収。残りがフンになる。

だ液の実験は先にヨウ素液を入れるとすぐに変化が見られる。

